

授業科目名	クリティカルケア看護演習Ⅲ <i>Seminar in Critical Care Nursing III</i>		担当教員		
開講年次	1年通年	セメスター	1・2	時間数(単位数)	60(2)
必修選択	専攻領域必修	授業形態	演習	使用教室	
授業の目的	全人的な苦痛を緩和・軽減するためのケア・処置に関する諸理論、原理、方法、効果判定などについての実践力を養う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各アセスメントツールの使用方法について学び、過大な侵襲を受けている患者を客観的に評価する手段を獲得することができる。 2. 具体的な実践事例を通し、学んだアセスメントツールを用いたうえで、患者の病態を正しく判断し、適切な看護ケアを導き出すことができる。 3. スケールやアセスメントツールの開発の過程と、それらを用いた国内外の研究の動向を知ることができる。 				
授業計画	<p>本科目は、クリティカルな状況にある患者の状態を客観的に評価するための方法について、国内外で用いられている高い信頼性を持つスケールを教授するとともに、具体的な実践事例を用いて検討することで、正しく患者の病態を判断し、適切な看護ケアを導き出せる専門職者の育成をめざす。</p> <p>1回 : 鎮静と睡眠の評価①意識と脳、睡眠の基礎(ゲストスピーカー) 2回 : 鎮静と睡眠の評価②せん妄の分類、診断基準、発症構造と起因因子(ゲストスピーカー) 3回 : 鎮静と睡眠の評価③予防と発症後ケア(ゲストスピーカー) 4回 : 鎮静と睡眠の評価④日本語版 CAM-ICU、鎮静プロトコルの活用とケア(ゲストスピーカー)</p> <p>5回 : 疼痛評価①痛みの定義、分類と特徴(ゲストスピーカー) 6回 : 疼痛評価②鎮痛薬の種類、効能のメカニズム(ゲストスピーカー) 7回 : 疼痛評価③疼痛アセスメント(ゲストスピーカー) 8回 : 疼痛評価④鎮痛ケアの実際とその効果の判定(ゲストスピーカー) 9～10回 : 睡眠ケアと鎮静管理モデル開発と研究の動向 11～12回 : 睡眠ケアと鎮静管理の実際: 院生によるプレゼンテーション準備 13～14回 : 睡眠ケアと鎮静管理の実際: 院生によるプレゼンテーション 15～16回 : 疼痛管理に関する研究の動向 17～18回 : 看護師による疼痛管理の実際: 院生によるプレゼンテーション準備 19回 : 看護師による疼痛管理の実際: 院生によるプレゼンテーション 20回 : 重症度評価① APACHE スコアを用いた評価の実際 21回 : 重症度評価② ISS、RTS、TRISS などを用いた評価の実際 22回 : 重症度評価③重症度評価に関する研究の動向 23～24回 : 院生による看護ケアの検討-事例1準備 25～26回 : 院生による看護ケアの検討-事例1発表 27～28回 : 院生による看護ケアの検討-事例2準備 29～30回 : 院生による看護ケアの検討-事例2発表</p>				
学習方法	授業は、客観的評価方法としてのスケールやアセスメントツールに関する講義と討議で構成する。討議の準備として、各テーマに関連する資料を自主的に集め、自己の考えをまとめておく必要がある。				
オフィスアワー					
テキスト	毎回の講義で提示する				
参考文献	道又元裕: ICU ディジーズ, 東京, 学研メディカル秀潤社, 2013.				
評価方法	担当したプレゼンテーションの内容(70%) 授業への積極的参加度(30%)				